

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3155507号
(U3155507)

(45) 発行日 平成21年11月19日(2009.11.19)

(24) 登録日 平成21年10月28日(2009.10.28)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 1 C 1/00 (2006.01)

A 4 1 C 1/00 E

A 4 1 C 1/02 (2006.01)

A 4 1 C 1/02 B

A 4 1 B 9/04 (2006.01)

A 4 1 C 1/00 F

A 4 1 B 9/04

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2009-6401 (U2009-6401)

(22) 出願日 平成21年9月8日(2009.9.8)

(73) 実用新案権者 000005359

富士紡ホールディングス株式会社
東京都中央区日本橋人形町1丁目18番1
2号

(74) 代理人 100068124

弁理士 大野 克躬

(74) 代理人 100073117

弁理士 大野 令子

(72) 考案者 石井 香衣

東京都中央区日本橋人形町1-18-12
株式会社フジボウアパレル内

(72) 考案者 横内 美幸

東京都中央区日本橋人形町1-18-12
株式会社フジボウアパレル内

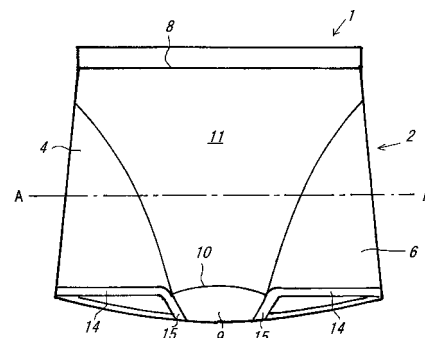
(54) 【考案の名称】 成形衣料

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 下半身成形衣料の編成において、編成方法を部分的に変更し、衣料本体編地に段差を生ぜしめることなく、腹部を押さえ、ヒップアップ効果を有する衣料を提供する。

【解決手段】 ショーツ前身頃2及び後身頃において、衣料横方向仮想線A-Aから上方前身頃地4及び上方後身頃地を緊迫力の強い又は伸長率の低い弾性糸と非弾性糸を引きそろえて編成し、ショーツ横方向仮想線A-Aから下方前身頃地6及び下方後身頃地は、編成に使用する弾性糸を仮想線A-Aで上方前身頃地4及び上方後身頃地より緊迫力の弱い又はより伸長率の大きい弾性糸に変え、この弾性糸と非弾性糸とを引き揃えて編成する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

伸長率の異なる二種類の弾性糸を使用し、下半身成形衣料本体の上部に伸長率が低く緊迫力の強い弾性糸を使用し、下半身成形衣料本体下部に上部弾性糸より伸長率が高く緊迫力の弱い弾性糸を使用して編成された下半身成形衣料。

【請求項 2】

下半身成形衣料本体を、前記緊迫力の強い弾性糸と非弾性糸、又は緊迫力の弱い弾性糸と非弾性糸とを引揃えて編成してなることを特徴とする請求項 1 に記載の下半身成形衣料。

【請求項 3】

前記下半身成形衣料において、衣料本体前身頃のウエスト部からクロッチ部に至る腹部押さえ部と、衣料本体後身頃のヒップ外周下方より裾口に至るヒップ支持部とを、緊締力の大きい組織で編成することにより設けてなる請求項 1 又は請求項 2 に記載の下半身成形衣料。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、二種類の弾性糸を非弾性糸と共に使用し、編組織も部分的に変更して編成してなる下半身成形衣料に関する。

【背景技術】

【0002】

衣料、特に婦人用の人体に直接又は間接的に沿う状態で着用される衣類においては、肌触りとともに、着用時に、身体へのフィット感と共に、身体補整機能を有することが好まれる。その為、編成方法を部分的に変更して異なる組織の編地としたり、伸縮性を有する素材自体を使用して伸縮性素材を衣料本体に部分的に重ね、又は縫合して補整機能を具備させることが行われている。

【0003】

整形用ガードルは、通常ウエスト部位から下方の下腹部、即ち、腰部、腹部、臀部、大腿部などの外観を美しく整える目的で使用されている。例えば、ボトム下着として、複数本の糸条を合わせたプレーティング編によりガードルを編成し、後身面に、フロート編み組織で上端部が後身面の全幅にわたって延びる略エ字形ヒップ引上部を設け、前記ヒップ引上部の上端縁を全幅にわたってウエストバンドに接合し、ヒップ引上部の下縁を密な組織のヒップ持上部に接合し、前記略エ字形ヒップ引上部内周縁及びヒップ持上部の上縁によって囲まれたヒップ部の編目を粗くしてわん状に膨出させた下着が知られている（特許文献 1）。

【0004】

また、所定のヤーン伸長率を有するエラスチックヤーンを使用し、丸編み又は平編みによって部位毎に伸び率の異なる 5 つの編み組織を組み合わせて構成したガードルも開示されている（特許文献 2）。このガードルを構成する異なる伸び率からなる編み組織は、丸編みにより所定の部分の伸び率を変えながら編み上げられ、モールド加工を行って体型補整機能を高めることが記載されている。しかしながら、特許文献 1 に記載の上記した複数本の糸条を合わせたプレーティング編により編成し、後身面に、フロート編み組織で上端部が後身面の全幅にわたって延びる略エ字形ヒップ引上部を設けたボトム下着は、ヒップ引上効果を得ることは出来るが、腹部を抑える機能は不十分である。同様に、特許文献 2 に記載の一定のヤーン伸長率を有するエラスチックヤーンを使用して 5 つの編み組織を組み合わせて構成したガードルにおいても、ガードルの前側腹部を最も伸び率の少ない組織で編成しているが、腹部を抑える効果は不十分である。また、各部位の伸長率を 5 段階に変更しながら編成することは、きわめて煩雑な設定が必要となる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】実用新案登録公報第2533167号

【特許文献2】特許第3641359号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

本考案における下半身成形衣料とは、ショーツ、スパッツ、レギンス等、直接肌に接する状態で着用でき、また、ソフトガードルとして、肌着用衣料と併用することも可能なものを含む。本考案は、女性用成形衣料において、伸縮性の異なる二種類の弾性系を用い、弾性系と被弾性系とを引揃えて衣料を編成することに加え、衣料本体の編成において、編成方法を部分的に変更し、衣料本体編地に段差を生ぜしめることなく、腹部を押さえ、ヒップアップ効果を有する衣料を構成することを目的とする。更に、本出願の考案においては、本体地を平坦に編成するのみでなく、着用時の肌触りも考慮したものであるので、腹部を押さえるガードルとして使用するのみでなく、直接、肌に接して着用することも可能な成形衣料とした。

10

【課題を解決するための手段】

【0007】

本考案成形衣料は、伸長率の異なる二種類の弾性系を使用し、衣料本体の上部に伸長率の少ない又は緊迫力の強い弾性系を使用し、衣料本体下部に上部弾性系より伸長率の大きい又は緊迫力の弱い弾性系を使用して編成された成形衣料である。衣料本体は、弾性系と、非弾性系とを引き揃えて編成する。更に、衣料本体前身頃にウエスト部からクロッチ部に至る腹部押さえ部と、衣料本体後身頃のヒップ外周下方より裾口にいたるヒップ支持部とを、緊迫力の大きい組織で編成することにより、腹部を押さえると共にヒップアップ効果を有する成形衣料とする。

20

【考案の効果】

【0008】

本考案の成形衣料は、弾性系と非弾性系よりなる編み系を引き揃えて編成するものであって、衣料本体の上部に緊迫力の強い弾性系を使用し、衣料本体下部に上部弾性系より緊迫力の弱い弾性系を使用して編成された成形衣料である。従って、衣料本体は、肌触りが良く肌になじみ易いものであり、下腹部上部が下部に較べて緊迫力が強く編成される。更に、編成時に部分的に編み組織を変更し、腹部前面においてはウエスト部からクロッチ布にかけて設ける腹部押さえ部を、後腰面においてはヒップを支えるためにヒップ外周下部を伸び率が低い編地として編成しているので、腹部を押さえると共にヒップアップ効果を有する。

30

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】図1は、本考案の一例であるショーツ前身頃を示す正面図である。

【図2】図2は、図1に示したショーツの後身頃を示す背面図である。

【図3】図3は、ショーツに縫着されるクロッチ布の展開図である。

【考案を実施するための形態】

40

【0010】

本考案による下半身成形衣料は、上記のようにショーツ、ガードル、スパッツ、レギンス等を含むものであるが、主としてガードルとしても兼用することの出来る成形ショーツについて説明する。

本考案の成形ショーツ本体1は、図1に示されたショーツ前身頃2及び図2に示した後身頃3において、衣料横方向仮想線A-Aから上方前身頃地4及び上方後身頃地5を緊迫力の強い又は伸長率の低い弾性系と非弾性系を引きそろえて編成し、ショーツ横方向仮想線A-Aから下方前身頃地6及び下方後身頃地7は、編成に使用する弾性系を仮想線A-Aで上方前身頃地4及び上方後身頃地5より緊迫力の弱い又はより伸長率の大きい弾性系に変え、この弾性系と非弾性系とを引き揃えて編成する。編地の編成は、以下に述べる特

50

定構成部片以外の部分は、特に限定はされず、例えば1／1のリブ編みとすることができる。本考案で使用する弾性系としては、通常衣類に使用されている弾性系の中から、緊迫力に差のある二種類の弾性系を任意に組み合わせて使用することができる。例えば、緊迫力の強い弾性系は、20～50デニールのポリウレタン系を使用し、緊迫力の弱い弾性系としては、50～140デニールのポリウレタン系を使用することができる。

弾性系と共に引き揃えて使用する非弾性系としては、綿糸、ポリエステル糸、その他の混紡糸を適宜選択して使用する。尚、ウーリー糸は、伸縮性を有するが、ウレタン弾性系のような強い伸縮性を有しないので、本願においては非弾性系とする。綿糸を使用すれば、直接肌に接して着用する際に、肌触り、吸湿性に勝れた衣料を得ることが出来る。

【0011】

本考案の成形ショーツにおいては、腹部のふくらみを押さえ成形効果を持たせるため、衣料前身頃の編成地にショーツウエスト線8からショーツ股下部に縫着されるクロッチ布9との接合部10に向かって腹部押さえ部11を形成する。この部分の編地は、前身頃2の他の部分より緊迫力の大きい組織として編成して腹部の突出を押さえる。図1においては、逆三角形の腹部押さえ部11を記載しているが、その他、菱形、ダイヤ型等、適宜の形状に編成することが出来る。この部分は、緻密な編目とすることが緊迫力を大きくするために好ましく、例えば緻密な鹿の子編とすることが出来る。上記のように、この腹部押さえ部11においても、A-A線より上方部分は、緊迫力の強い又はより伸長率の低い弾性系が使用され、A-A線より下方部分はより緊締力の弱い又はより伸長率の大きい弾性系が使用されているので、逆三角状腹部押さえ部11においても、A-A線上部は、より大きい緊迫力を有し腹部の突出を防止する効果が大きい。

【0012】

図2に示した成形ショーツ本体1の後身頃3においても、仮想線A-Aの上方後身頃地5は、ショーツウエスト線8から緊迫力の強い又はより伸長率の低い弾性系と綿糸を引き揃えて上方前身頃地4に連続して編成する。衣料横方向仮想線A-Aから下方後身頃地7は、仮想線A-A付近で編成に使用する弾性系をより緊締力の弱い又はより伸長率の大きい弾性系に変え、非弾性系と引き揃えて下方前身頃地6と連続して編成する。編地は特に限定はされない。後身頃3においては、両ヒップ外周下方線12より裾口14及びクロッチ布9上端に至る部分を、前記前身頃2に設けた腹部押さえ部11と同様の緊締力の大きい組織として編成してヒップ保持部13とする。緊締力の大きい組織で編成することにより緊締力を大きくし、ヒップを持ち上げ、体型を補整する効果を持たせる。この部分は、ショーツ本体1の後身頃3のA-A線上方後身頃5よりは緊締力の弱い弾性系を使用しているが、このように、ヒップ保持部13において編地組織を変更することにより段差を生じることなく、違和感を生ずることなくヒップアップ効果を達成することが出来る。

【0013】

前身頃2及び後身頃3のウエスト部8、8には、常法により伸縮性テープ、折り返し部分の形成等によって処理する。ついで、クロッチ布9を逆三角状腹部押さえ部11との接合部10とヒップ保持部13の下端縁中央部に接合する。前身頃2及び後身頃3の裾口14及びクロッチ布9の両端15は、折り返し、伸縮性テープやバイヤス布等の縫着などで適宜従来法により処理する。

尚、上記下半身成形衣料については、ショーツを例として説明をしているが、本考案は、ショーツ以外の上記構成を有する衣料をも含むことは言うまでもない。

【産業上の利用可能性】

【0014】

本考案の成形衣料は、弾性系と非弾性系を引き揃えて、衣料本体の上部に緊迫力の強い弾性系を使用し、衣料本体下部に上部弾性系より緊迫力の弱い弾性系を使用して編成された成形衣料である。従って、衣料本体は、肌触りが良く肌になじみ易いものであり、各構成部分を縫合する手間を要せず、しかも前面の腹部押さえ部及び腰部後面のヒップ外周下部を伸び率が低い編地で編成しているので、成形衣料として勝れた成形効果を有する衣料である。

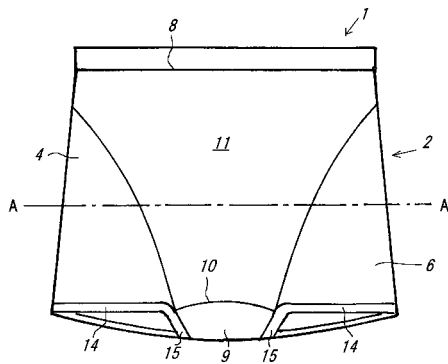
【符号の説明】

【0015】

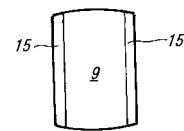
- 1 ショーツ本体
- 2 前身頃
- 3 後身頃
- 4 上方前身頃地
- 5 上方後身頃地
- 6 下方前身頃地
- 7 下方後身頃地
- 8 ウエスト線
- 9 クロッチ布
- 10 接合部
- 11 腹部押さえ部
- 12 ヒップ外周下方線
- 13 ヒップ保持部
- 14 裾口
- 15 クロッチ布両端
- A-A ショーツ横方向仮想線

10

【図1】



【図3】



【図2】

